

平成 23 年度 小木中学校の 防災教育

- 4 月 20 日 ■講演会「能登半島地震を経験して」星野正光さん（輪島市門前町）
- 27 日 ■講演会「震災直後の現場で見たもの」川本京介さん（能登消防署）
- 5 月 24 日 ■ハザードマップ作り
- 31 日 ■第 1 回避難訓練（中学生対象）
■避難経路確認
- 6 月 7 日 ■避難経路危険箇所確認
- 14 日 } ■避難経路案内図作成
21 日 } ■壁新聞作成
24 日 }
- 27 日 ■国語科「小学生に伝えよう」
■講演会「小木地区の災害」
岩城康德さん（小木）
- 7 月 1 日 } ■避難経路 D V D 制作
5 日 } リポーターが避難
12 日 } 経路を説明する D
V D を制作
- 8 日 ■国語科「津波についての発表会」
- 13 日 ■地域聞き取り調査
- 20 日 ■小・中・高・保護者合同避難訓練
- 8 月 18 日 } ■避難所生活体験活動
19 日 } テントの設営や野外
炊飯の方法を学ぶ
- 9 月 30 日 ■P T A 防災・避難所訓練
- 10 月 6 日 ■津波について考える会
「津波について考えてみんけえ」
■家庭版ハザードマップ完成
（小木地区全世帯に配布予定）
- 10 月 16 日 ■小木地区津波避難訓練
- 11 月 12 日 ■小木中学校文化祭
・防災劇発表
- 1 月 15 日 ■子どもドリームフェスティバル
で発表（県立音楽堂）

■ハザードマップ作り
地図を貼り合わせて
10 m、20 m、30 m
の等高線や避難時間な
どを入れた。小木地区
の商店 30 店舗以上に
掲示されている。



■壁新聞作成
3 月 12 日から 6 月
11 日まで 3 カ月間の
新聞から「人の優しさ、
強さ」をテーマに被災
から復興に向けての新聞
記事を集めて壁新聞に
した。



■地域聞き取り調査
小木地区の家庭約
150 軒を訪問し「津波
警報が出たとき困ると
思われること、心配な
ことはありませんか」
という聞き取り調査を
行った。



■ P T A 防災・避難所
訓練
災害時、避難所とな
る体育館で①避難ス
ペース区分け訓練②ダ
ンボール間仕切り設
営・居住体験③避難所
運営体験談を聞く④非
常食試食体験⑤ドーム
型テント設営などを
行う。P T A・生徒ら
73 人が参加。



■津波について考えて
みんけえ
これまでの取り組み
を紹介し、避難経路図
や D V D を配布した。
後半は金沢大学の青木
賢人准教授による津波
講演。中学生の思いに
地域が応えてほしいと
訴えた。地域住民ら約
140 人が参加。



10 月 6 日、小木公民館で開催された「津波について考えてみんけえ」は、地域住民ら約 140 人が詰めかけ、津波への関心の高さを示していた。津波防災教育の取り組み発表後、配布された避難経路図や避難 DVD は、多くの住民が持ち帰ってくれた。

防災を日常に

本年度から防災教育に取り組む小木中学校。防災の知識を身につけた生徒は、やがて大人になり、親になる。学校、家庭、地域が一つになり防災を日常生活の一部として根付かせる大きな一歩が防災教育だ。

できることからやる

「東北に学ばせてもらっている。東日本大震災の教訓を絶対に無駄にしない」

4 月から小木中学校に赴任した小川正校長は、防災教育に取り組むきっかけを話す。

「小木は三陸沿岸と同じリアス式海岸の港町。津波を自分たちのこととして考えたとき、学校、生徒、保護者として、できることからやろうと訴えた」

主に取り組んだのは 3 年生 28 人。▽各教科▽総合的な学習▽道徳▽ P T A 活動」などを通じて、防災について学び、地域を調べ、訓練を重ねてきた。

「津波の速度や到達時間は数

学、地図を調べることは地理の勉強になる。防災教育は普段の教育の中で十分に取入れられるし、勉強を身近に感じること

で生徒たちの学ぶ姿勢を育むことができる。先生方にとつても、アイデアを出して実践していくことで指導力の向上につながる」と小川校長は力を込める。

避難路の危険箇所を調べ、聞き取り調査などを実施する中で、生徒たちは地域の一員であることを自覚し、地域に貢献するやりがいを感じる。

「自分たちの地域を守る。小

木から一人も津波の犠牲者を出したくない」と口をそろえる生徒たち。防災教育を通して、古里への愛情も育まれている。



小木中学校

小川 正 校長

防災教育を通して命の大切さを学ばせ、今を真剣に生きる姿勢と将来を生き抜く力を身につけさせたい。

4月に赴任してきたとき、生徒はすでに大震災被災者への義援金を集めていました。この熱心と行動力を持った生徒、そして九十九湾を前に、何としても防災教育を始めねばと決意しました。

誰かがやってくれるのを待つのではなく、自分たちにできることは何かを考え、できることからまずやってみようと、スピード感を持って取り組んできました。生徒も先生も、小木からは犠牲者を一

人も出したくないとの強い思いで取り組んでいます。生徒の取り組みをきっかけに、地域の皆さんが防災について考え、避難訓練など実際に動いておられる姿が私たちの大きな励みとなっています。

生徒には、自らの命を自らで守り、共に助け合うという意識を持つことで、命の大切さを学び、古里小木を愛してほしい。そして何より、今を真剣に生きる姿勢と将来を生き抜く力を身につけてもらいたいと願っています。

小木中学校 3 年生担任

廣澤孝俊 先生

高まった防災意識を継続していくため、防災を「地域の文化」、「学校の伝統」にしていきたい。

「小木に津波が来たらどうなるのか」「地域の人を守りたい」。生徒たちのつづやきが、防災教育の方向性を示してくれました。

津波避難のためにハザードマップを作る。実際にどの道を通るのか、安全を確認して避難経路図を作る。もっと分かりやすく伝えるために DVD を作る。生徒たちは、「地域の人たちを守るために当たり前のことをしている」という意識で取り組んでいました。

9月の県民津波フォーラムで片田先生の話のを伺い、自分たちのやっていることは間違いではないと確信しました。

避難訓練に参加する地域の人たちの表情を見ると、防災意識が高まっていることを感じ、手応えも感じています。

高まった防災の意識を継続していくためには、防災を「地域の文化」「学校の伝統」にしなければなりません。その一つとして、新たな小木中の伝統にしようとして「防災劇」にも取り組んでいます。



小木中学校 PTA 会長

坂下卓志 さん

やるとやらないでは結果が違う。子どもたちの命を守るために、防災教育・防災訓練をやるしかない。

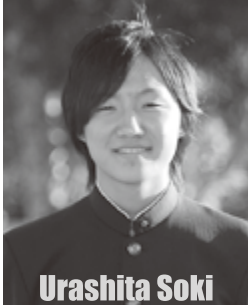
最初は人ごとのように感じていた子どもたちも、訓練や発表を重ねる中で、津波が来たら人の命が失われること、自分たちの活動が命を守ることにつながるということを肌で感じ、真剣に取り組むようになりました。

避難訓練などを通じて「体験しないといけない」ことを痛感しました。一度も中学校まで上がったことのない人は、実際に避難できないかもしれない。一回でも体験していればパニックになりませ

ん。PTA としても、親、そして地域を巻き込むために、年中行事に防災訓練を組み込むなど、防災の取り組みを続けていく仕組みづくりを考えています。そして、今後も小木中学校の取り組みを発信し続けることで、ほかの地域や学校の参考になればと思っています。

防災教育に関しては、釜石の子どもたちが答えを出しました。やるとやらないでは結果が大きく違う。子どもたちの命を守るために、やるしかないと思います。

①町内名②印象に残っている活動（その理由）



浦下宗輝さん
(3 年)
①庄崎
②地域の人たちの前で発表したこと（思っていた以上に参加してくれた）

勉強してきたことを生かしたい。

4月から津波の防災の勉強をしてきて、今まで自分が想像していたよりも、津波の被害はものすごいものだと分かりました。そして、津波の怖さをすごく感じました。もしも津波が起こったら、避難の仕方など今まで勉強したことを少しでも発揮できればいいなと思っています。

地域の一員として
地域を守りたい。

地域のために自分たちができることは何か。手探りから始まった小木中学校の防災教育。この活動を通して、生徒たちは何を学んだのか。中心となった生徒や先生、PTA に話を聞いた。



岡田大地さん
(3 年)
①明野
②避難所体験（避難所生活が大変だということが分かった）

地域の人たちに伝わってほしい。

この防災教育を通して、津波の恐ろしさが分かりました。劇をやって、いろいろな事も学びました。

お年寄りや小学生が、急な坂をのぼるのは大変なので、助け合っていけないとダメです。僕たちの劇や発表が、ほかの中学校や地域の人たちに伝わってほしいと思います。



角口琳久さん
(3 年)
①明野
②避難訓練（役に立つから）

避難訓練をやって良かった。

何度も避難訓練に参加して、本当に大地震や大津波が起きて避難することになったら、もっと人が多くなるし混乱すると思いました。避難訓練をすることで、参加してくれる地域の人たちの意識も高まったと思うので、本当に良かったです。でも、役に立つようなことは起こってほしくないです。



高野寛大さん
(3 年)
①高瀬
②避難所体験（ダンボールで部屋を作るのが大変だった）

今できることに取り組みたい。

津波が本当に来たら、お年寄りや体の不自由な方、幼い子どもたちを優先して避難させようと思いました。

大変な苦勞をしている被災地の方を思い、何もできない自分に腹が立ちましたが、この取り組みで少しは役に立てたと思っています。これからも今できることに取り組んでいきたいです。



松谷智代さん
(3 年)
①新町
②避難訓練（地域の人参加してくれて良かったと思う）

小木の多くの人に知ってほしい。

小木にもし津波が来たらどうなるのか考えるようになりました。ハザードマップを作り、地域の人たちと避難訓練をしたことはとても良い経験になったと思います。だから、中学生の取り組みを小木の多くの人たちに知ってもらい、津波が来ても一人も犠牲者を出さない町にしたいと思いました。



坂口博紀さん
(3 年)
①庄崎
② DVD 作成（暑中リポートを作ったから）

犠牲者を小木から出したくない。

東日本大震災のような、多くの犠牲者をこの小木から出してはいけないと思いながら、この活動をしてきました。地域への発表ではたくさんの人たちが来てくれて、僕たちの活動を知ってもらえてうれしかったし、何より小木の防災意識が強く根付いていることを感じました。



藪下 彩さん
(3 年)
①高瀬
②津波について考えてみんけえ（予想以上に人が集まっていて緊張した）

この取り組みを続けてほしい。

東日本大震災が起こるまで、あまりこういったことを考えたことがありませんでした。大きな災害が日本で起こって、いろいろなことを考えて取り組んできました。学校のみならず地域の皆さんもちょっと考えが変わったと思います。後輩には、この取り組みをこれからも続けてほしいと思います。